

日本文理大学における 質向上・質保証の取り組み

日本文理大学
学長 橋本 堅次郎



日本文理大学の概要



NBU 日本文理大学

建学の精神

教育理念

産学一致

人間力の育成

社会・地域貢献

学部・学科

工学部

- ・ 建築学科
- ・ 情報メディア学科
- ・ 機械電気工学科
- ・ 航空宇宙工学科

社会デザイン学環
(26年開設予定)



(関係協力学部: 工、経営経済)

経営経済学部

- ・ 経営経済学科
 - ・ ビジネスソリューションコース
 - ・ 地域マネジメントコース
 - ・ 会計ファイナンスコース
 - ・ スポーツビジネスコース
 - ・ 福祉マネジメントコース

保健医療学部 (2023年開設)

- ・ 保健医療学科
 - ・ 診療放射線学コース
 - ・ 臨床検査学コース
 - ・ 臨床医工学コース

○学部在学生数：2,309名
○専任教員数：119名

- 1967年創立
- 前身は「大分工業大学」
- 1982年より現在の校名に
- 2023年「保健医療学部」設置
- 2026年「社会デザイン学環」設置予定



建学の精神・教育理念・教育改革の概要

建学の精神「産学一致」

産学一致

時代の変化を捉え、柔軟な
発想で、課題解決のできる
人材を育成

2007年
(40周年)に
教育理念を
再編
人間力教育
を宣言！

教育理念

人間力の 育成

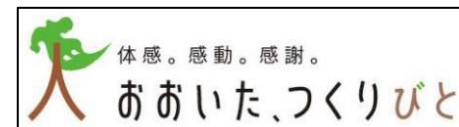
社会や人との関わり
の中から、新しい可
能性を創造し、挑戦
を続ける人材を育成

社会・地域 貢献

常に社会・地域との
つながりを意識して、
主体的に行動できる
人材を育成

COC事業の推進から 産学一致教育の深化へ

- “人間力”教育から
“地域創生人”の育成へ



- 文科省 地（知）の拠点
整備事業に2014年採択
- 取組テーマ：
豊かな心と専門的課題
解決力を持つおおいた
地域創生人材の育成
- この教育改革が
本学の現在の教育基盤
- 今年度から**産学一致教育
の深化、新たな挑戦へ**

【学長メッセージ】 COC事業による 教育改革の歩み

2014年

「地域を
キャンパスに!」

地域連携教育
への転換
(大学COC事業)

2015年～

教育改革への
取り組み

・地域志向科目 ↑
全体の40%以上
・PBL

日本文理大学は、2014年から**地域に必要とされる大学**を目指し、大学改革に取り組んできました。今後もさらなる教育改革に取り組んで参ります。

「学生をどのように伸ばし、何ができるようになっていくか」

・2023年度 収容定員数(1-4年)
2014年対比で**140.4%**
(2020年度 152%)

・2023年度 大分県出身学生総数。
2014年対比で**160.4%**

・2022年度 県内就職者数
2014年対比で**150.5%**

・2022年度 就職率 私学**第1位**
朝日新聞出版「大学ランキング2024」
(九州・沖縄地区)

・授業アンケート
2022年度 後期 **4.49**
↑0.41(2015年後期対比)
(5段階評価)

・大学ブランドイメージ調査
(日経BP:教職員編)
ブランド偏差値 2022年度 **第4位**
(伸び率全国2位)(九州・沖縄・山口)
(私立のみ、福岡除く22大学)

2023年度～
さらに地域を
キャンパスに
(COC)

高等教育ブランドデザイン答申の実現

教学マネジメント改革

2025年度～
企業と一体と
なった産学一
致教育の実践

プロジェクト

3

豊後大野市の地域資源を活かした 観光コミュニティビジネスの開発



豊後大野市…温泉はないが、ジオパーク・エコパークに代表される自然・暮らし・文化を背景にした地域資源は豊富

1年「大分学・大分楽」

1年「森里海連環
学と地球的課題」

2年「社会調査法」

1年「フィールド
ド・スタディⅠ」



2年「観光学
入門」

2年「観光ビ
ジネス論」

2・3年「フィールド
ド・スタディⅡ・Ⅲ」

豊後大野紅葉くらべコースの提案
白山溪谷 → 宝生寺 → 用作公園



3年「地域経営論」

3年「地域
イノベー
ション論」

2～4年「ゼミナール」

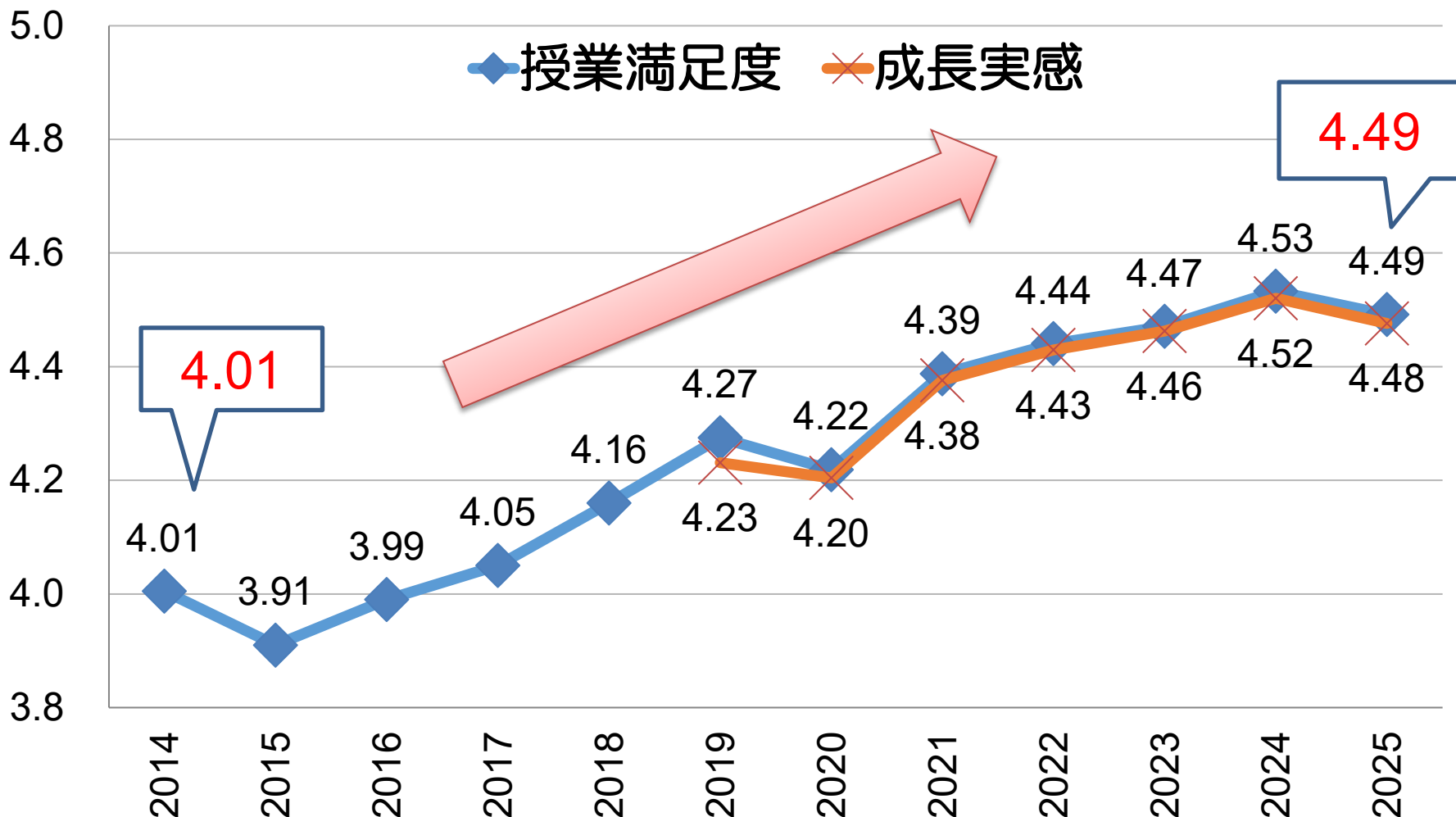


体験交流活動

知識の修得

課題解決型学修

10年の教育改革の成果「授業評価」



・授業アンケート: 全科目で学期末に実施。5段階評価。

※2025年度は
前期のみ

卒業時のDP達成実感（2023年3月卒業生）

■身に付いている ■どちらかと言えば身に付いている ■一概に言えない ■どちらかと言えば身に付いていない ■身に付いていない

① 社会人として健全な倫理観と責任感を身につけ、時代の変化を捉えて課題を解決しようとする意欲をもち、社会・地域に貢献しようとする情熱を持っていること。

4.30

② 自然や文化・伝統など幅広い視野に立って、産業界の要請に応える各分野の専門知識と実践的応用力を身に付けていること。

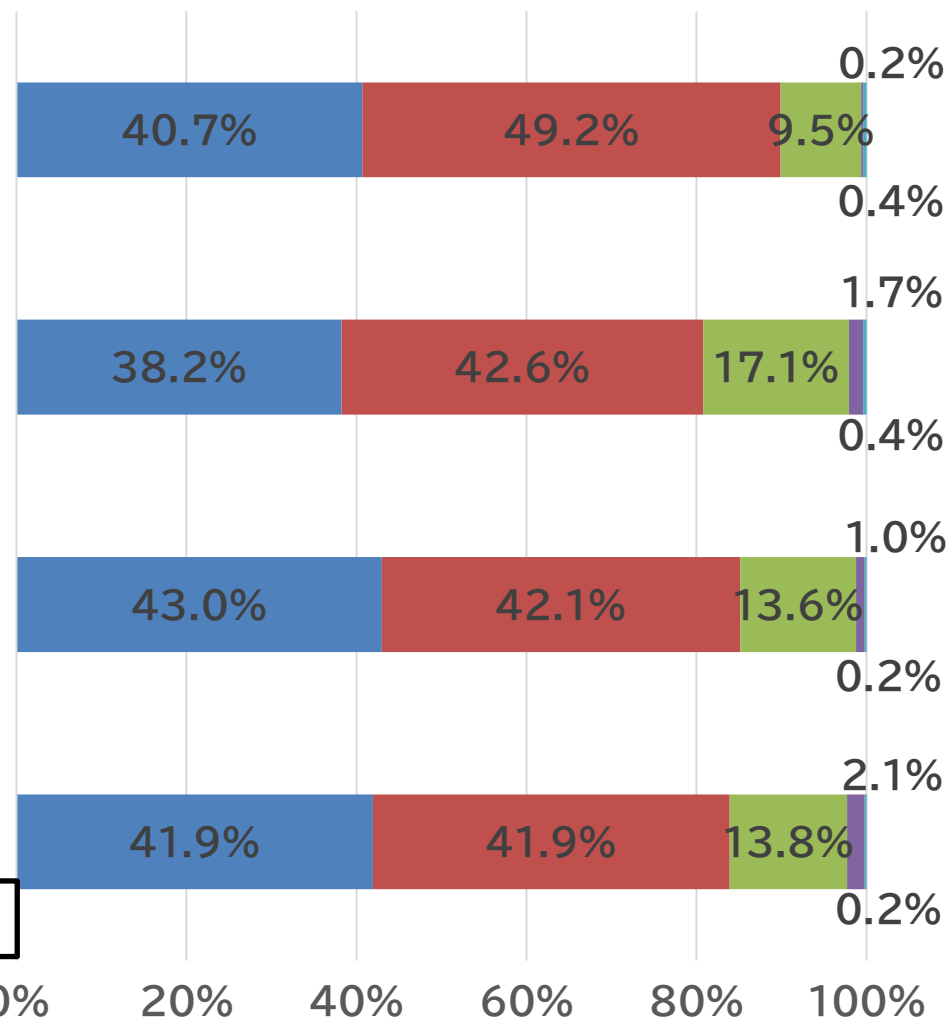
4.17

③ 専門知識を活用するための技能とプレゼンテーション能力、チームで活動するためのコミュニケーション能力を身につけていること

4.27

④ 課題解決において多角的かつ柔軟な思考力をもち、新しい仕組みや分野の創造にも前向きに取り組みチャレンジする能力をもっていること。

4.23



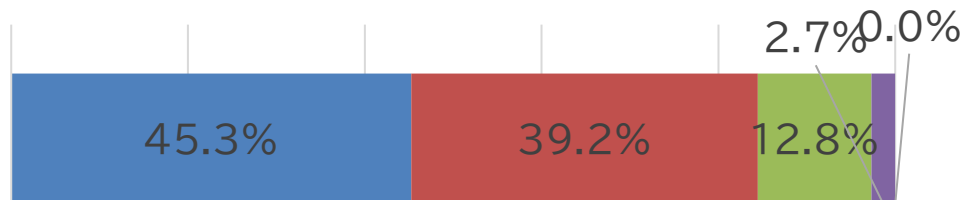
N=484名 7

就職先によるDP達成度評価 (2023年3月卒業生)

■身についている ■どちらかと言えば身についている ■一概に言えない ■どちらかと言えば身についていない ■身についていない

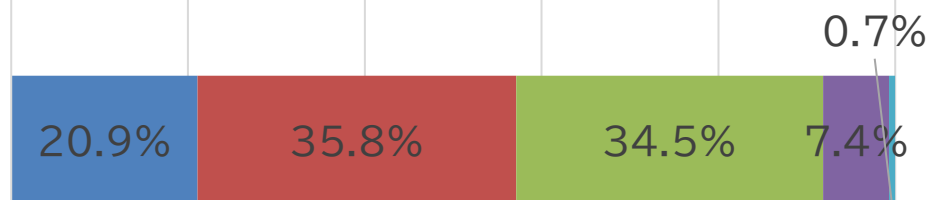
①社会人として健全な倫理観と責任感を身に付け、時代の変化を捉えて課題を解決しようとする意欲をもち、社会・地域に貢献しようとする情熱を持っていること。

4.27



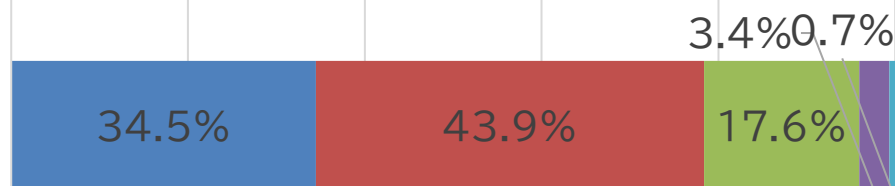
②自然や文化・伝統など幅広い視野に立って、産業界の要請に応える各分野の専門知識と実践応用力を身に付けていること。

3.67



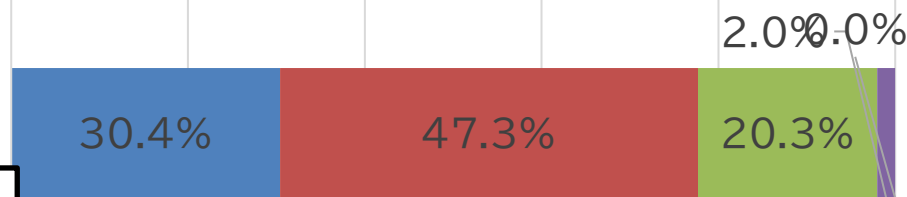
③専門知識を活用するための技能とプレゼンテーション能力、チームで活動するためのコミュニケーション能力を身に付けていること。

4.08



④課題解決において多角的かつ柔軟な思考力をもち、新しい仕組みや分野の創造にも前向きに取り組みチャレンジする能力をもっていること。

4.06



0% 20% 40% 60% 80% 100%

N=148名 8

採用企業の声

高い倫理感、使命感
と未知の課題にも
挑戦しようとする意欲

コミュニケーション能力
があり、必要な資格も
有していた

謙虚で何事にも
真剣に取り組
組む姿勢

周囲を牽引す
る力、人当たり

協調性や大分県
や地域の方への
貢献意欲

バイタリティ、
行動力、論理
的思考

専門科目の基礎的な
教養、それらを活かして
モノづくりに取り組
む意欲の高さ

社会人としての
今後の伸びしろ

向上心があり
若者ならではの
思考力

真面目で素直、
協調性が高い

自らの考えを持ち、
言語化して伝える
能力が高い

周りからの評判も
良く、常に熱心な
姿勢で学ぶ意欲

仕事や業界に
対する興味や
探求心があった点

入社後の働きぶり等の総合的評価

N=148名

■ ① 期待以上 ■ ② 期待通り ■ ③ これからの成長に期待 ■ ④ 期待とは異なる ■ ⑤ 期待とは大きく異なる

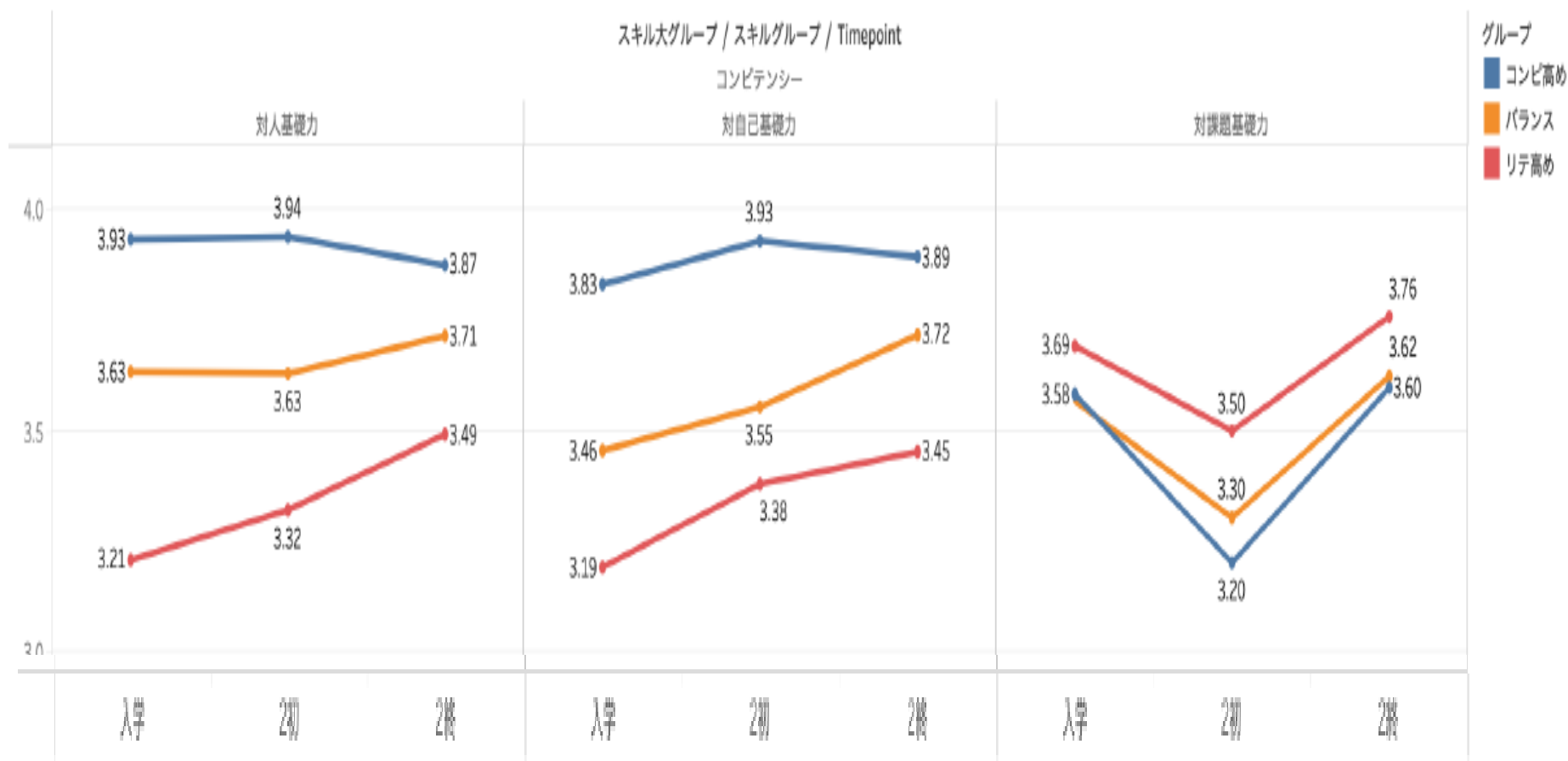
22%

38%

39%

1%

入学後からのコンピテンシー（人間力）の成長



入学時に人間力が高なくてもしっかり伸びる！

※PROGテスト(河合塾・リアセック)の受験結果(コンピテンシーの総合スコアで最大は7)
 ※コンピテンシーは対人・対自己・対課題によりよく向き合う力で経験に基づく行動特性

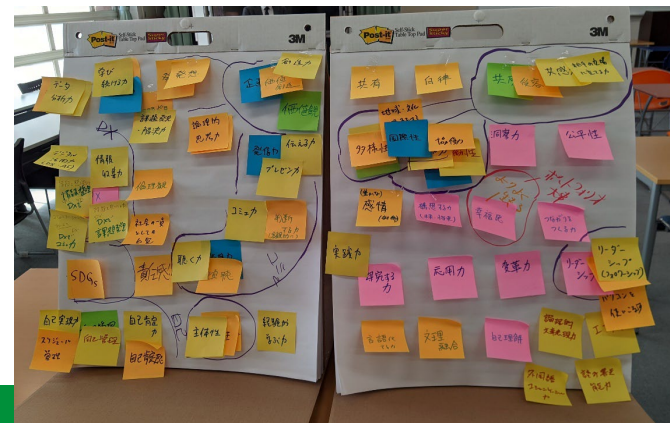
教学マネジメント委員会

- 教学マネジメント基本方針に基づき、学修者本位の教育を行うための改善に取り組むことを目的
- 学長、副学長、研究科長、学部長、学長室長、FD委員長、実務家教員、IR担当教職員、大学事務本部所属職員、専門的な支援スタッフで構成
- 所管事項
 - 3つのポリシー（DP、CP、AP）の改善
 - 3つのポリシーを踏まえて、大学等の取組の適切性にかかる点検・評価
 - 学修成果の把握に必要なIR情報の収集、分析、公表

DPの再検討を行うワーキングを2023年8月に設置。
副学長を座長に教室主任、学部教務委員長等で構成

DP検討ワーキング

- 3回の会議と1回のワークショップにより、全学DPについて認識と方向性を共有化
- 教育目標の再確認を起点に、学生に分かりやすく、可視化が可能な能力要素を議論



2025年度入学生から適用の全学DP

1. 人間力の基盤となるより良く生きるための力を身に付けている。
2. 時代の変化に適応でき、産業界及び社会・地域の発展に貢献するための素養となる基礎的能力と汎用的な力を身に付けている。
3. 産業界及び社会・地域のニーズに応えることができるための教養、倫理観と高度専門職に必要な知識、技能を身に付けている。

■ 人間力を構成する10の要素

1	自己肯定・幸福感	6	コミュニケーション力
2	共感力	7	他者と協働する力
3	学び続ける力	8	論理的思考力
4	主体性	9	課題発見・解決力
5	リーダーシップ能力	10	創造的思考力

■ 職業能力を構成する4の要素

1	基礎学力
2	職業意識・倫理観
3	ICTスキル
4	データ分析力



全学DP/CPをもとに、学部DP/CP
(学位プログラム単位)を各学部で再定義

2025年度入学生から適用の全学CP

【教育課程の編成と教育内容】

- DPに基づき、学修を通じて育成する「人間力」「職業能力」「専門能力」を身に付けるために、**教養教育科目**と**専門教育科目**の正課科目、他**正課外学習**による教育課程を編成する。
 - ① 教養教育科目は、学部を超えた分野学部等横断カリキュラムを編成し、初年次教育と人間力及び職業能力の基盤となる力を身に付けるための科目を配置する。
 - ② 専門教育科目は、各学部の専門分野の体系や人材育成の目的に基づいて、倫理観と高度専門職に必要な知識、技能を身に付けるための科目を配置する。
 - ③ 正課外学習は、課外活動やプロジェクト活動、資格講座、ボランティア活動等を提供し、人間力や職業能力を育成するための活動を実施する。

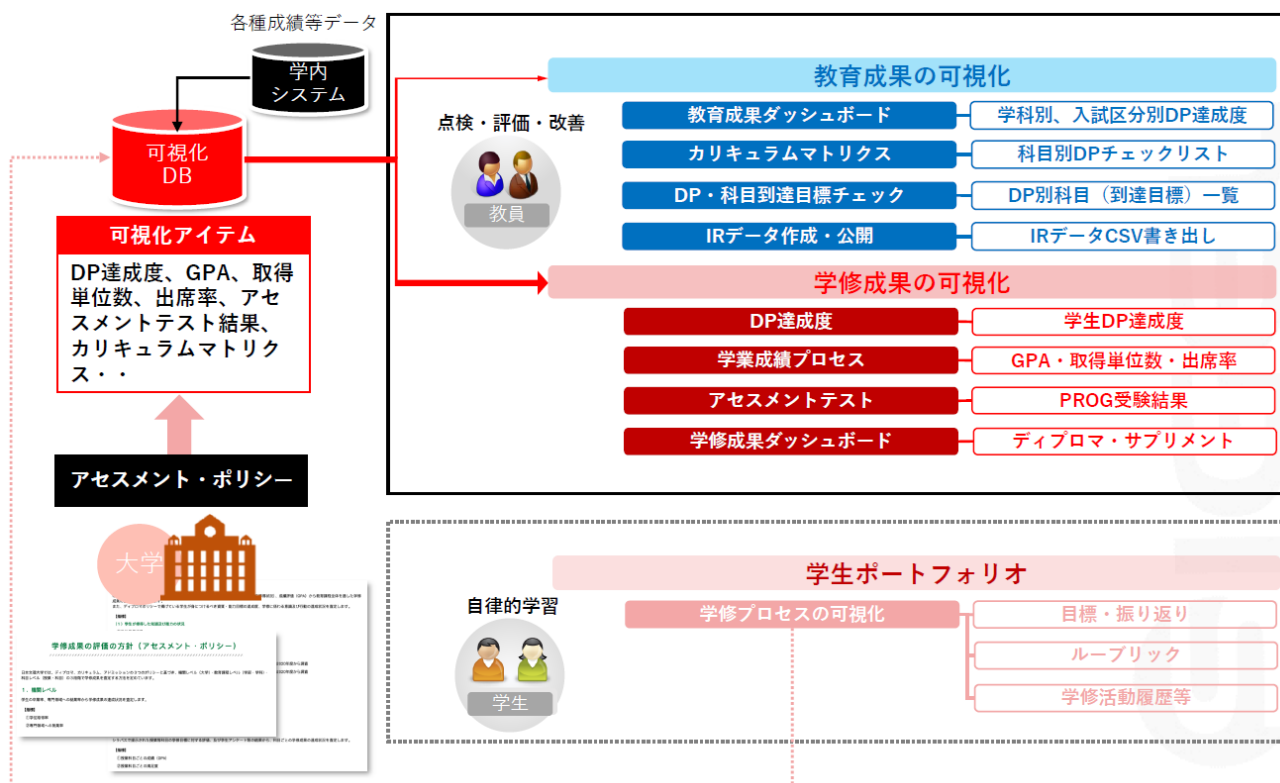
【教育方法】

- ① **地域の人的・物的資源や学内リソースを活用した実践的教育**を積極的に実施する。
- ② **アクティブ・ラーニング**の視点を取り入れた教育を積極的に実施する。
- ③ デジタル技術を活用したハイブリッド教育を積極的に実施する。

【学修成果の評価】

- ① シラバスに到達目標を具体的に明示し、到達目標に対応した評価方法により厳格な成績評価を行う。
- ② ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力の達成状況を確認するため、その総括的評価を卒業研究、ゼミナールにおいて行う。

質向上・質保証に向けた 学修成果/教育成果の可視化の 新たな取り組み

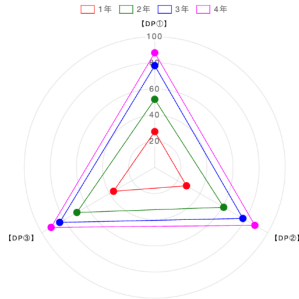


2026年度から学修教育成果アセスメントシステムを本格導入

学修成果の可視化＜DP達成度＞

大学DP達成度

DP達成度（NBU大学：概算）



【DP①】人間力の基盤となるより良く生きるための力を身に付けている

【DP②】時代の変化に対応でき、産業界及び社会・地域の発展に貢献するための基礎的能力と汎用的な力を身に付けている

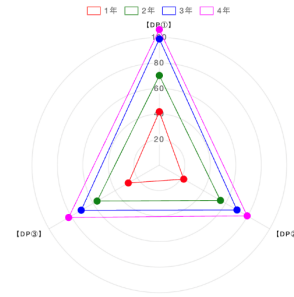
【DP③】産業界及び社会・地域のニーズに応えることができるための教養、倫理観と高度専門職に必要な知識、技能を身に付けている

年度	学年	科目名	単位	評価	大学DP1	大学DP2	大学DP3
2025	4	スポーツリテラシー7A	2	S	50	30	30
2025	4	スポーツリテラシー8A	2	A	50	30	30
2025	4	ゼミナールⅣ	2	B	20	40	40
2025	4	フィールドスタディⅢ（こども・福祉マネジメント）	2	C	20	30	50
2025	4	権利擁護と成年後見	2	D	20	40	40
2025	4	相談援助の理論と方法B	2	A	20	30	50
2025	4	保健医療サービス	2	C	20	30	50
2024	3	エクササイズテクニク	2	B	80	20	20
2024	3	ストレンクス&コンディショニング実践	2	A	80	20	20
2024	3	スポーツリテラシー3（コーチング&ティーチング）	2	B	80	10	10
2024	3	スポーツ栄養学	2	A	80	10	10
2024	3	ゼミナールⅢ	2	S	20	40	40
2024	3	ビジネス・コミュニケーション論	2	A	30	40	30
2024	3	フィールドスタディⅠA（地域マネジメント）	2	B	40	50	40

教学マネジメントでは、教育成果を確認するとともに教育改善に活かす

学部DP達成度

DP達成度（NBU学部：概算）



【DP①】人間力を基盤に、幅広い教養と社会人としての責任感と倫理観をもち、経営学・経済学に関する基礎的知識及び専門的・実践的知識を修得できている

【DP②】絶えず変容する現代社会において、データを活用しながら、多角的に考察・分析し課題解決策を論理的に説明することができる力を身に付けている

【DP③】社会生活及び地域生活における社会的事業について、修得した知識と能力を総合・活用し、新たなビジネス領域等の創出にチャレンジする力を身に付けている

年度	学年	科目名	単位	評価	学部DP1	学部DP2	学部DP3
2025	4	スポーツリテラシー7A	2	S	20	30	50
2025	4	スポーツリテラシー8A	2	A	20	30	50
2025	4	ゼミナールⅣ	2	B	20	40	40
2025	4	フィールドスタディⅢ（こども・福祉マネジメント）	2	C	20	30	50
2025	4	権利擁護と成年後見	2	D	20	40	40
2025	4	相談援助の理論と方法B	2	A	50	30	20
2025	4	保健医療サービス	2	C	20	50	30
2024	3	エクササイズテクニク	2	B	80	20	20
2024	3	ストレンクス&コンディショニング実践	2	A	80	20	20
2024	3	スポーツリテラシー3（コーチング&ティーチング）	2	B	80	10	10
2024	3	スポーツ栄養学	2	A	80	10	10
2024	3	ゼミナールⅢ	2	S	20	40	40
2024	3	ビジネス・コミュニケーション論	2	A	30	40	30
2024	3	フィールドスタディⅠA（地域マネジメント）	2	B	10	50	40

カリキュラムマップを元に
各自の修得単位に基づいた
大学・学部DP達成度/人間力・
職業能力要素達成度を可視化

学修活動のショーケース公開

ポートフォリオ

活動記録パネル (N)						
編集	公開設定	活動日	タイトル	概要	画像	添付
	公開	2025/7/10		このボランティアで、私は・・・を学んだ。		
	公開	2021/12/22	前期の目標の振り返りを実施	前期では学生間でのピアレビューを通じて自分の中で新しい気づきを導けるように目標設定していたが、概ね多くの気づきにつながった		
	公開	2021/12/15	課題提出	これまでのレポートの中でメンバーと何度も意見交換を重ねての成果であった。		課題レポート2025年6月28日.doc
	公開	2021/12/14	実習を通じて	今回の実習において学んだことは、今後の仕事において、非常に学ぶべき大事にしたいことであるため、ここに残します。・・・		

担当教職員が必要に応じて
確認、伴走支援

ショーケース

ショーケースによる
公開

学修活動を各自がポートフォリオに
蓄積していくとともに、ショーケース
に展開(就活等で活用)

テスト学生 (デモ) 学部 テスト学部 学科 テスト学科 学年 4年 コース名

2021/12/14
実習を通じて

今回の実習において学んだことは、今後の仕事において、非常に学ぶべき大事にしたいことであるため、ここに残します。・・・

#授業振り返り #学内活動

2020/09/20
クラブ活動、野球全国大学で優勝！

これまでの練習が実り、全国制覇ができた。この日を目標に日々頑張ってきたのである。

#部活動・サークル活動

ハッシュタグ tags

#授業振り返り
#地域活動
#部活動・サークル活動
#学内活動

アーカイブ archive

2025年
2021年
2020年

2025

2021

2020

2025/07/10
このボランティアで、私は・・・を学んだ。

前期の目標の振り返りを実施 2021/12/22
前期では学生間でのピアレビューを通じて自分の中で新しい気づきを導けるように目標設定し...

課題提出 2021/12/15
これまでのレポートの中でメンバーと何度も意見交換を重ねての成果であった。

実習を通じて 2021/12/14
今回の実習において学んだことは、今後の仕事において、非常に学ぶべき大事にしたいことである...

クラブ活動、野球全国大学で優勝！ 2020/09/20
これまでの練習が実り、全国制覇ができた。この日を目標に日々頑張ってきたのである。

担任教員による
履修指導にも活用

学生

国家試験模試



大分・東京・宮崎など

30社以上が

あなたの成長に伴走

本気
大学の
企業と

NBU 日本文理大学
NIHON BUNRI UNIVERSITY

2026年4月新しい大学教育への挑戦が始まる。

社会デザイン

SCHOOL OF SOCIAL AND INDUSTRIAL DESIGN

質向上に向けた各学部の
「産学一致教育」の深化と
「社会デザイン学環」の設置

学環

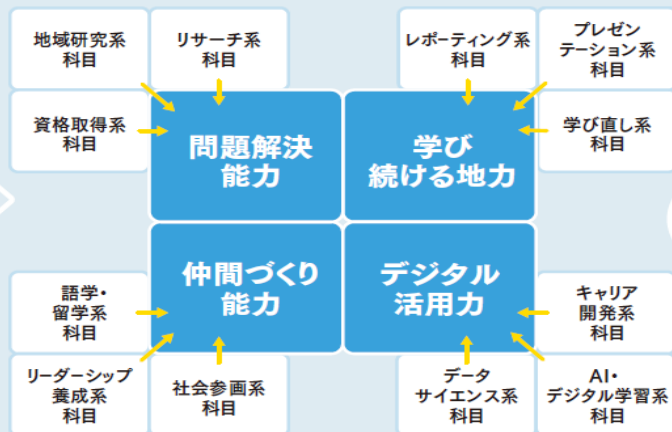
がつ

かん

19

コーナーストーン(基礎)教育

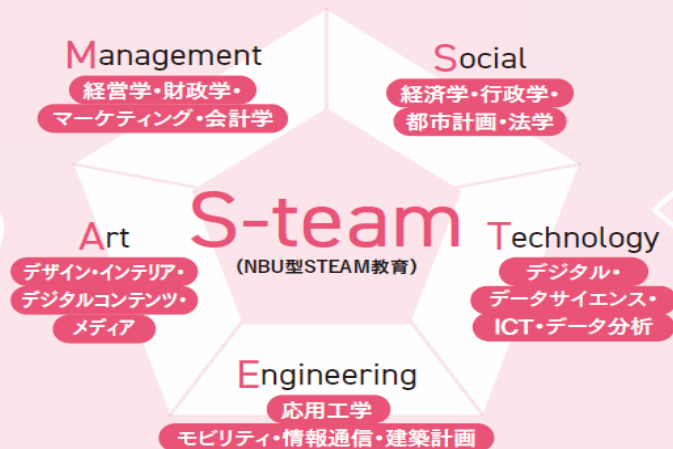
人間力開発と職能開発プログラムで
4つの基礎力を養う



実践と理論を行き来しながら繰り返し学ぶ。

S-team(NBU型STEAM教育)

学部を横断し教員もチームで教える
クロス学修プログラム



実践と理論を行き来しながら繰り返し学ぶ。

実践と理論を行き来しながら、多角的な視点を養い、独自の専門性を高める。

社会デザイン実践プロジェクト

各年次でプロジェクトを選択し「実践知」と「応用学習」を繰り返す。

地域ビジネスづくりプロジェクト

持続的社會を目指し、地域特徴や地域が抱える課題に焦点を当て、実学的に課題解決策や事業開発に挑戦する。

#地方創生 #マーケティング
#建築 #メディア
#都市計画

社会エンジニアリングプロジェクト

産業やインフラ課題に焦点を当て、エンジニアリングを武器に課題解決策やインフラ開発に挑戦する。

#自動車 #データ
#ドローン #デジタル
#ロボット

まちづくり制度設計 プロジェクト

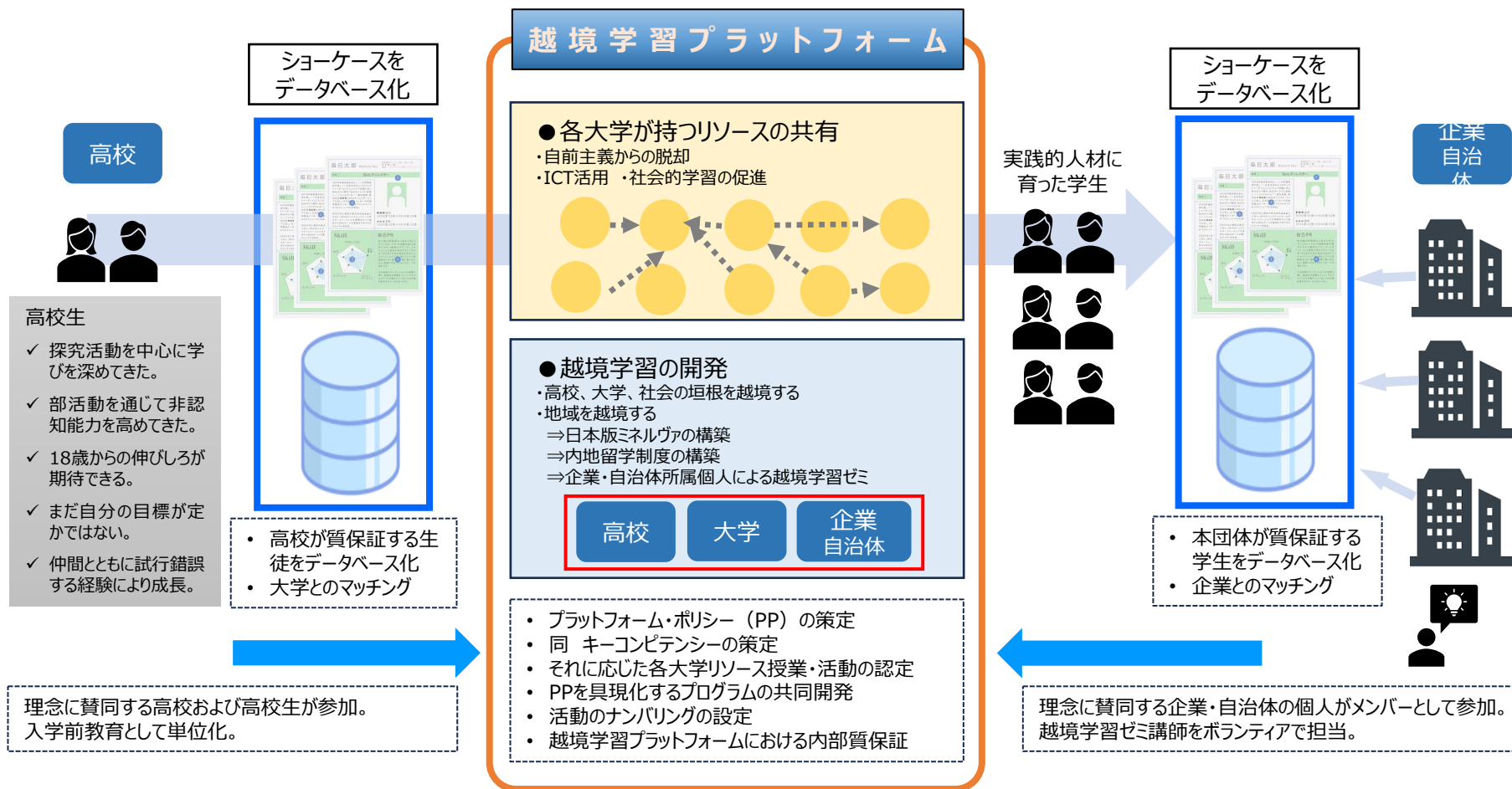
行政や公共施設が抱える仕組みや制度について、経済学や法制度に関する知識をもとに地域活性化に挑戦する。

#マーケティング #財政学
#情報 #データデザイン
#経済学

実践的人材を本気で育成する越境プラットフォームの構築

◎ 桐蔭横浜大学、東京家政学院大学、京都文教大学、日本文理大学

わが国の社会・経済の持続的発展に貢献する実践的人材の育成に向けて、これまで教育を質的に転換してきた、同じ機能を持つ大学が地域を越えて連携し、共通の課題解決に向けた量的転換、すなわち、持てる資源を共有し、越境学習や高次の高大社接続システム開発等、より高インパクトの取組を進め、連携各大学の機能強化と学生募集力、すなわち経営力の強化を図る。



大学間越境学習プログラムを本格展開

日本文理大学「寄付講座（愛媛・大分の観光周遊拡大を考える）」

えひめ・おおいた観光周遊ルートの提案と情報発信
一圏域内外の大学生によるフィールドワーク実践一

4大学各5名計20名が
4チーム（各チームは
2大学混成）に分かれて、

- 愛媛・大分の交流拡大、大都市部からの観光入り込み客の拡大に資する観光周遊ルートの提案
→ 11月29日に成果発表
- 9月11日～13日のフィールドワーク活動を通じてSNS情報発信
- えひめ・おおいた交流事業実行委員会（市町）全面協力



桐蔭横浜大学「プロジェクト入門（持続可能なエネルギー社会を考える）」

地域・専門・学年が交ざり価値感広がる
大学間で越境学習 エネルギーをテーマに

全国6大学が参加する「大学間越境学習プログラム」は、この3月、2か月に及ぶトライアルを終えた。これは一つのテーマのもと、学生が各地域性や専門性を活かして発表しあい、その違いに目を向けて幅広い価値観を習得するもの。事務局を務めたのは桐蔭横浜大学（森朋子学長）の教育研究開発機構。森学長は「おおむね成功だった」と振り返る。森学長と河本達毅副学長に聞いた。

〇2か月のトライアルとして
「大学間越境学習プログラム」として

り、最先端の研究動向についてオンラインで学びつつ、探究活動を行いその成果を発表する。②地域におけるエネルギー問題、③社会課題の解決の軸で捉えることができる。

間、毎週進捗を報告する。1か月後に二次報告会（オンライン）を行い、成果報告と次のアクションを探究する。さらに資料を作りこみ、2週間後の二次報告会（オンライン）で最終報告を行う。

全体の進行は桐蔭横浜大学の溝口侑特任講師。

【4大学事業共通の指標】実践的人材力

…自己評価・学生間評価・教職員評価・外部評価

	自己理解力	課題探究力	協働実践力	発信力	実現力	省察力
	他者との交流を通して、自らの価値観や関心を明確にし、将来の生き方や学びの方向性を主体的に描く力	地域の現実課題に対し、自ら問いを立て、情報を収集・分析しながら仮説を立て、検証・提案していく力	異なる背景をもつ人々と対話・協働し、共通の目的に向かってチームで成果を生み出す力	自分たちの思いや考えを工夫してわかりやすく伝え、相手の気持ちや行動を動かす力	地域や社会の一員として、課題に当事者意識を持って関わり、持続可能な未来の実現に寄与する力	越境的な経験を振り返り、学びや成長を言語化して可視化し、次の学びや行動につなげる力
S(卓越、Excellent)	他者との深い交流のなかで、自らの関心や価値観を明確に言語化でき、将来の生き方や学びの方向性を明確に持ちながら行動している。	現場の課題を的確に捉え、独自の視点で本質的な問いを立て、仮説構築から検証、提案まで論理的かつ創造的に遂行できる。	異なる価値観や意見を尊重しつつ、チーム全体を成果に導くリーダーシップがある。	内容や伝え方をよく工夫し、わかりやすく伝えることで相手の気持ちや行動を動かすことができる。	地域や社会の課題に対し主体的・継続的に関与し、実効性ある活動や仕組みづくりを通して成果を出している。	自らの経験を多角的に省察し、得られた学びを概念化したうえで、今後の学習・行動に具体的に活かしている。
A(良好、Good)	他者との交流のなかで、自分の関心や価値観を言語化にしており、将来の生き方や学びの方向性を描きながら行動に移している。	与えられた課題に対して妥当な問いを立て、情報収集・分析を行い、仮説の検証とそれを踏まえた提案ができています。	他者との協働に積極的に関わり、役割を果たしつつチームの合意形成に寄与している。	相手に合わせた内容や伝え方を考えて、わかりやすく伝えている。	地域や社会の課題に関心をもち、自ら行動を起こしながら継続的な関与を行っている。	経験から得た気づきを言語化し、それを次の行動や学びに活かす視点を持っている。
B(標準、Acceptable)	他者との交流を通じた自己理解の姿勢が見られ、自分の関心や価値観を軸に、将来の生き方や学びの方向性を描けている。	与えられた課題に対して問いを立て、必要な情報を集めて検討し、仮説の検証と提案ができています。	チーム内で必要な役割を果たしており、協働を通じた成果への貢献が見られる。	自分の思いや考えを、基本的な形で明確に伝えることができる。	地域や社会の課題に対して当事者としての視点を持ち、学びを行動に移そうとする姿勢が見られる。	経験を振り返り、自分の学びについて明確に言語化している。
C(要改善、Insufficient)	他者との交流を通じた自己理解の姿勢が見られず、自分の関心や価値観を軸にした将来の生き方や学びの方向性を描けていない。	問いが曖昧または不明確で、情報収集や仮説・提案の過程が一貫していない。	協働への関与が不十分で、チームの目的や成果への貢献が見られない。	発信の内容がはっきりせず、相手に伝わりにくい。	地域や社会の課題に対する関心や行動が見られず、当事者としての意識が希薄である。	経験を振り返る視点が乏しく、学びを言語化できていない。

学生の学びと成長を多面的に評価/閲覧できるシステム 「VUE (Value & Understanding Evaluation)」を共同開発



地方大学としてのさらなる質向上・質保証に向けて

- 地方は人口減少問題だけでなく、大卒人材が必ずしも多くない。地域のリーダーとなる実践的人材を本気で育成する地方大学が不可欠
- 地方には一緒に教育に参画いただける企業・団体が多いが、大学の本気度が試される
- 私立大学は建学の精神にあらためて立ち返った3つのポリシーの見直し、学修成果・教育成果の可視化、不断の教育改善が不可欠
- これまでの知識・技能偏重の一面的評価から多面的評価への切替、社会的理解も不可欠
- 大学間連携・越境学習は、学生の飛躍的な成長が期待でき、都市部との交流は学生間だけでなく地域にとっても有効
- 一方で多面的評価、丁寧な評価・伴走や越境学習にはそれなりにコストがかかる

